

グループ⑥	ファシリテーター:永山 貢(日立総合病院)
テーマ	教育について
参加者	2名 新人教育担当者手術室勤務 8 年目、手術室勤務 15 年目
内容	<p>〈グループワークで話した内容〉</p> <p>グループワークで最初に上がった話題は、「教育を行う際、何から教えて良いのか悩んでいる」を切り口に、教育に使用する手術マニュアルや独り立ちチェックリストなど教育に活用は一通り揃っているのか、新人看護師に向けての教育計画は立案されているかなど質問があった。また入職する新人看護師は、看護学生時代に手術室に触れる機会(講義や実習など)は、手術を受ける患者を受け持たない限り少ないのではないかという意見があった。そのため、器械出し・外回りなどの狭義のことから教えるよりも組織の中の手術室の役割や、そこで行なっている業務など手術室全体を捉えられる広義な教育から始めればよいのではないかという結論に至った。</p> <p>次に上がった話題は、「新人看護師に対し、こんなこともできないの?わからないの?」と口にする先輩看護師がいるとのことだった。それに対し、新人教育の進捗を一覧にして掲示にするなど可視化してはどうか。よって、先輩看護師が教育進捗を把握することで、「できないの?わからないの?」などといった発言も減るのではないか。という案があった。また、苦手な先輩看護師がいる場合は、業務配置に配慮してはどうかという意見もあった。したがって、教育担当者は、新人看護師の教育進捗だけに捉われず、新人看護師を心身ともに擁護することにも意識を向け、新人看護師の体調管理にも配慮する必要があるという意見でまとまった。</p>
所感	<p>グループワークは 3 人で実施したが、上記以外の話題もあり活発な意見交換ができた。グループワークを行うなかで、重要だと感じたのは、教育を担う看護師は、新人看護師に対し知識や技術を教えるだけでなく、新人看護師の個別性を把握することが重要であり、それにあった教育方法を実施することが大切であると再認識できたグループワークであった。今回のグループワーク醍醐味は、臨床の教育についてたくさんの意見交換ができて、他の施設に勤務する看護師と情報交換ができたことである。このグループワークのファシリテーターの機会を与えてくれたことに心から感謝したい。また T 病院の S さん、N 病院の O さん、活発な意見交換ありがとうございました。おかげでグループワークも盛り上がりました。お疲れ様でした。</p>